

北海道
HOKKAIDO

七飯近藤9回10K完投 木田9回V打

七飯近藤9回10K完投 木田9回V打

特別な夏が始まった。夏季北海道高校野球大会は11日、函館地区で開幕した。開幕試合は大野農・八雲・七飯の渡島連合が函館水産に6-5で勝利し、北海道の20年ぶり優勝となった。七飯の右腕、近藤結斗(3年)が9回1-55球を投げ5失点も、10三振を奪い完投。打っては同じ七飯の木田陽久(二塁手)20打が同点の9回2死満塁で勝ち越し2点適時左前打を放ち、勝利を導いた。

◎函館地区(函館市千代宮園)
AブロックV1回戦
大野農・七飯・八雲 0-0 1-2 0-0 2-6
函館水産 0-1 0-0 0-1 1-5
▽近藤 七飯 佐藤 函 佐々木 真 佐藤 函 一 藤

保護者、控え部屋以外は無観客の函館千代合公園に、3校を代表し七飯の校歌が響き渡った。9回1-55球を投げ完投した連合のエース右腕、七飯・近藤は声を張り上げ熱唱した。「試合ができてよかったわい。昨秋は初戦で負けて歌えなかった。最後の夏に歌えて良かった」と喜んだ。同点に追いつけた直後の9回表に決勝打を放った木田も「近藤が頑張ってくれていたんで、なんとか一本打って良かった」と笑顔を見せた。

最後まで、冷や冷やだった。9回裏1点差に追い上げられた。木田は「死に三塁のピンチ、近藤は最後の打者を二ゴロに打ち取る。空を見上げ安堵(あんど)の表情を見せた。長短15安打を浴びながらも、10番三振で粘った。七飯の佐藤誠哉捕手(3年)に頭をむしづかみされ苦笑い。同じ3チーム連合で挑んだ昨秋の地区初戦は、全道大会に出場した函館工に7回まで1点リードも、8回につかまり4失点で逆転負けした。近藤は「今回は佐藤が何度も声をかけてくれたので、最後まで落着いて投げ切ることができた」と振り返った。

つながった

今春以降、3チームでの練習は6月20日の練習試合が最初。この日まで計5度の練習試合だけが連合での活動だった。それでも昨秋から3チームでブルームーンをつくっており、コロナ自粛期間も互いに動画をアップして励ましあつた。近藤は「練習を共有。近藤は「連合だけじゃ、みんな分り合った仲間」と強調した。

指揮を執ったのは大野農の土藤拓郎監督(26)。ベンチ上に掲げた旗は八雲、校歌は七飯、八雲の石川伊吹左翼手(3年)は6回に右越え適時二塁打、大野農の佐藤昌弥遊撃手(3年)は4打数2安打、9回には決勝の生還も果たした。土藤監督は「全員が勝ちたいんだという気持ちがあった。みんなで取り組んだ成果が出せた」。3本の矢、でっかんだ1勝を足掛かりに、次いで高みを目指す。大野農高職



9回表、木田は勝ち越しとなる適時三塁打を放ちガッツポーズをする

20年1番星

